

モデルプログラム M-1 現場における実践—支援を通して子どもの適応について知る—

ねらい	これから外国人児童生徒等教育に関わろうとする者が、実際に支援活動に参加することを通して児童生徒等の直面する困難を知り、文化適応の視点からかれらの置かれた状況を理解するとともに、積極的に支援に取り組もうとする。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	M 現場における実践 D 文化適応
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input checked="" type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	120 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. オリエンテーション（30分） ・文化間移動とライフコース（A） ・外国人児童生徒の文化（D） ・教師としての倫理（M） 2. 支援活動（60分） ・現場の状況に応じた指導・支援（M） ・授業・活動時の児童生徒等の参加状況の観察（M） 3. 体験の振り返り（30分） ・担当教員・関係者からのフィードバック（M） ・子どもの文化適応（D） ・サード・カルチャー・キッズ（L）	1. 訪問先のフィールド（学校、ボランティア教室）と児童生徒、訪問時の活動とそのねらいについて知り、配慮すべきことを検討する。 例：身体接触、宗教的背景、自尊感情、ジェスチャー等 2. フィールド（学校、ボランティア教室）で支援活動を行う。 1) フィールドの担当者より、その時間のねらい、活動内容を聞き、それに従って、子どもの支援を行う。 ◇できれば事前に聞いて、オリエンテーションで伝えておく。 2) 子どもの支援活動を行いながら、次の点を観察する ・子どもの学習上の困難 ・コミュニケーション上の困難 ・周囲の子どもや教師・支援者との係わり方 3. フィールドで参観したことを振り返る。 1) 支援したことや子どもの様子を活動2-2)の観点から話し合う。可能であれば、フィールドの担当者から話を聞く。 2) 心的文化変容モデル、サード・カルチャー・キッズ概念に照らし、子どもの今の適応状況について分析する。 3) これまでイメージしていた「外国人児童生徒等とその教育」と、実際に見聞きして把握したこと比べ、気づいたこととさらに学ぶべきことについてコメントを書く。
備考	